

六、大友親治書状

解説

明応五年（二四九六）、明応の政変によって將軍の地位を追われていた足利義材に与同するか否かをめぐって大友家内部に内紛が起こり、当主大友義右父子が殺され、当主の叔父大友親治がその危機を救うという事件が起きた。本文書もその一環と考えられ、この内紛で戦死したらしい吉岡龜寿丸の伯父孫三郎と弟孫七の忠節を親治が賞し、現在は闕所地がないため新しい恩給地を与えることができないとして、龜寿丸が知行している土地への課税を免除することで恩賞の替わりとしている。切封の帯が残存しているという意味でも貴重な古文書である。